

空調更新 CO₂削減率40%以上を達成

ホテル環境補助申請2件が採択

日栄商事(本社・金沢市、中村哲郎取締役社長)は、例年10月に開催している第13回環境設備勉強会について、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、今年の開催を中止することに決めた。これに伴い、発表を予定していた同社の環境補助事業申請案件(21年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金)2件および同社が取り扱う東芝キヤ

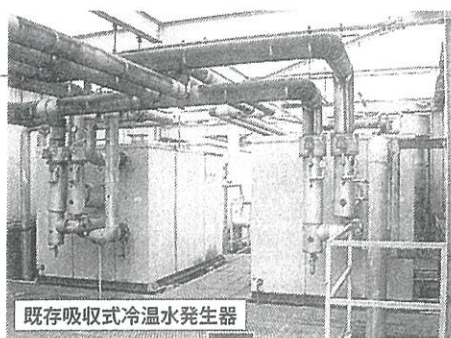
リアのビル用マルチ空調システム、パナソニック産機システムズの「ナノイーX」標準搭載業務用空調機の最新資料について取引先等に配布することとした。

環境補助事業申請案件では、金沢市内のホテルA(S造14階建て、1~2階共用部、3階、14階客室約460室)における既存吸収式冷温水発生器および

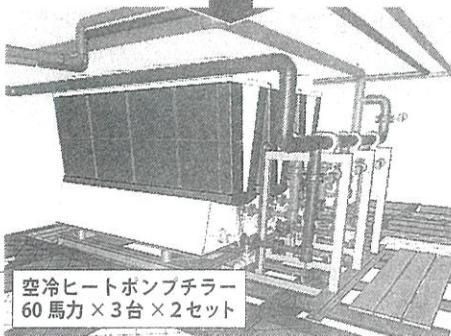
日栄商事

冷却塔から空冷ヒートポンプチャラー(60馬力×3台2セット)冷房能力540KW、暖房能力540KW)への更新、福井市内のホテルB(S造8階建て1階レストラン、2~8階客室約53室)における既存吸収式冷温水発生器からビル用マルチエアコン(ミニマルチ4馬力×9系統、5馬力×8系統)への更新計画を紹介。改修効果を検証した結果、年間ランニングコスト減少額はホテルAが約655万円、ホテルBが約103万円、CO₂削減率はホテルAが約43%、ホテルBが約46%という高い効果が得られた。同社では「補助事業の要件は、CO₂削減率30%以上とされるが、採択の最低ラインは40%以上と推測。今回、高効率機器を選定したことでCO₂削減率の数値が大きく向上し、採択の可能性を高めた」としている。

東芝キヤリアからは、ビル用マルチ空調システム「スーパーマルチUシリーズ」を紹介。大容量的のトリプルロータリーコンプレッサー、部分負荷特性に優れたデュアルステートインバーター等最新技術の実用化等により、コンパクトと高効率を両立。20年度省エネ大賞経済産業大臣賞(最高位)を見事受賞している。



既存吸収式冷温水発生器



空冷ヒートポンプチャラー
60馬力×3台×2セット

ホテルA(金沢市内)の空調更新計画

環境設備勉強会中止で資料配付